



一日一日、 燃えて生きよ

東京の銀杏は今、最後の輝きの時を迎えている。鮮烈にわが身を燃やし、一年の総仕上げの「時」を教えてくれる。

池田名誉会長は先月15日、東京・八王子市の創価大学を訪問。晩秋のキャンパスを視察した。空は

青く、「創大シルクロード」「ウイズダム・ロード」から見る黄金の銀杏が美しい。本部棟が、荘厳なまでに輝いて見えた。

銀杏は「公孫樹」とも書く。「孫の代に実がなる木」という意味である。名誉会長はつづった。

「その名は、〃自分のためではなく、未来の世代のために生き抜くのだ！ わが生命力を発揮して、歴史をつくるのだ！〃と語りかけているような気がしてならない」

一瞬、一日を大事に。この一年の「わが勝利」のために。

生き生きと
心を勇み走らせていく。
そうしたなかで、
一年の総仕上げをしていきたい。
人の何倍も忙しくとも
人の何倍も充実した人生。
それこそが
勝利の人生である。

その人こそ
偉大な人である。
我らの「人間革命」の前進こそ、
一年また一年、
まさに「最上の幸福」の年輪を
刻んでいるのである。

労苦の汗が光る一日！



陰で懸命に戦っている人、真剣に動いている人に最大の敬意を表します——友をたたえる池田名誉会長夫妻（2004年5月の本部幹部会、八王子市の東京牧口記念会館で）

なんと偉大にして尊きことか！
艱難に鍛えられた一日！
なんと人間として勝利し、
生きゆく価値を
創造していることか！
自身の限界に挑みゆく青春の挑戦は、
一日を一年に、
また一年を何十年にも
黄金不滅に輝かせている。

赤々と燃やしたい。
「勇気」というエンジンを。
そして逆風のときも、順風のときも、
堂々と、悠々と、
目的地に向かって飛び続けたい。
「何ものにも負けない」勇気——
それ自体が

「人間としての勝利」の炎なのだ。

我らは創価の道を征く。
自分が歩いたこの道は
全部、幸福の花が咲く。
自分が励ましたあの友は
全部、永遠の宝友となる。
自分が決めたこの道は
人類の悲願の平和の道だ。
父が、母が、あの同志が
苦難を勝ち越え、開いた道だ。
きょうも、我らは進みたい。
頭をあげて、胸を張り、
わが栄光の人生の道を！
世界の友と肩組みながら、
永遠の希望のこの道を！